

「慣れ」と「市民啓発」

国際戦略室 今島祥治

2020年2月2日から2月8日の日程で、埼玉県さんや埼玉県下水道公社さん、民間企業の皆様と共にタイ王国で打合せや現地調査を行ってきました。今回も初日の2月3日(月)にタイ下水道公社(WMA)との打合せを行いました。

チラ総裁をはじめ WMA スタッフの皆さんが、いつもの笑顔で迎えて下さいました。私も、なんだか「ここにまた戻ってきた」という感慨を覚えます。数えてみれば、タイ王国に出張に伺うのは、今回でちょうど10回目。全て、WMA との打合せをしてきました。チラ総裁にも名前と顔を覚えていただいて、東京で開催された IWA の展示会では、「イマジマ〜」という声に振り返ったら、WMA のチラ総裁だったということもありました。

さて、前置きはこのくらいにして、今回非常に強く感じたことがありました。

それは、同じところへの出張を重ねると、回を重ねるごとに「街の風景を写した写真」が少なくなっていくということです。

初めてタイ王国に出張に行った時を思い返してみると、電信柱の間に垂れ下がっている何十本もの電線の多さに驚いて写真をパチリ、車の間を縫うように走り抜けていくトックトックに感動しては写真をパチリ。と何でもかんでも写真を撮っていました。ところが、今回、気がついて見ると、仕事の写真以外に写したものは食事の写真ぐらい。(食事については毎回感動しているようです。)街の風景の写真が減ってきている原因は、おそらく「慣れ」。つまり「これは、そういうものなのだ」という感覚なのでしょう。

ここで、ふと、タイ王国の人々も、水路にゴミが浮いているのを見て、「これは、そういうものなのだ」と思っているのではなかろうか、「水路は汚いものだ」と皆が当然のこととして受け入れてしまっているのではないかと感じるようになりました。

いや、そんなことはない！ みんなが努力すれば、きれいな水路を手に入れることができる。きれいな水、水道から飲める水が出てくるということ、これは、みんなが努力すれば手に入れることができるというのを言い続けることの大切さ。今回の出張で改めて感じました。市民啓発は、市民の意識の変革が必要なだけに、時間がかかるけれど、本当に大切なことなのだということに改めて気づかされた出張でした。



食事の写真は毎度写しています…